(英和語羅馬字對譯挿入)
A translation to the English from the Japanese contained.

女學叢誌

驛遞局認可　明治十九年三月十三日　毎土曜日發兌　第拾三號

此の繪の說明ハ本紙中ニ在り

The Engraving illustrated in another page.

東京京橋區南鍋町貮丁目拾壹番地　發行所　績文舍

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學叢誌第十三號目次

●子を養ふとを學びて而して後に嫁すべし●婦人諸氏の奮發を希ふ●内外雜報拾壹件●内外烈女傳●筑後國のおたき●武昌縣の奇女子●武田勝頼の御臺所表書●英語の栞●泰西箴諺の直譯●群芳詞苑●雜錄

明治十九年三月十三日

本誌代價表

壹冊	正價金四錢	此郵税壹錢
拾冊	同金三拾八錢	同拾錢
二拾冊	同金七拾五錢	同二拾錢
三拾冊	同金壹圓拾錢	同三拾錢
四拾冊	同金壹圓四拾錢	同四拾錢
五拾冊	同金壹圓七拾錢	同五拾錢

但シ東京十五區内郵税不申請

本舍ハ御注文有之と雖とも前金御送附無之間ハ叢誌配達不仕事に内規相定候に付御注文の節ハ必ず代價郵税共郵便爲替又ハ通運便にて御送附わらんとを希ふ○郵券代用ハ御斷り申上候萬一郵便切手を以て代價御送附の節ハ壹錢切手にて一割増を乞

郵便爲替ハ芝區芝口郵便局へ御振込ミ其爲替分を本舍へ御送附可被下候

但し東京十五區内ハ御斷り無之間ハ引續き配達仕候

明治十九年 女學叢誌毎土曜日發兌表

一月	二日	九日	十六日	廿三日	三十日
二月	六日	十三日	二十日	廿七日	
三月	六日	十三日	二十日	廿七日	
四月	三日	十日	十七日	廿四日	
五月	一日	八日	十五日	廿二日	廿九日
六月	五日	十二日	十九日	廿六日	
七月	三日	十日	十七日	廿四日	卅一日
八月	七日	十四日	廿一日	廿八日	
九月	四日	十一日	十八日	廿五日	
十月	二日	九日	十六日	廿三日	三十日
十一月	六日	十三日	二十日	廿七日	
十二月	四日	十一日	十八日	廿五日	

廣告料定則

一行二十七字詰	壹回分	二回分	三回分	四回分
自一至十行	八錢	七錢	六錢五厘	五錢
自十一至二十行	七錢	六錢五厘	六錢	四錢五厘
自二十一至三十行	六錢	五錢五厘	五錢	四錢
自三十一至五十行	五錢五厘	五錢	四錢五厘	三錢五厘

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

◎女學叢誌

○子を養ふとを學びて而して後に嫁ぐべし

未だ子を養ふとを學びて而して後に嫁ぐものあらずとハ盲昧の世にして未だ開けざるころの譬喩なりとハいへあまり甚だしく道理に背きたるの言といふべし夫れ世上百般のと何事によらず仕立てあげて結果を見るべき事業ハそべて前以てろの研究方あらざるハあらず橐駝のあらかじめ能く草木の性質を研究そる鳥屋のあらかじめ能く禽鳥の性質を研究そる木工の木理を研究する鑄工の金質を研究するみな是れなりされば世の人何人たりとも未だ草木の性質を心得ざる橐駝を雇ひて庭園の花卉の培養せしむるものあらずいまだ禽鳥の性質を心得ざる鳥屋をたのみて小鳥の飼養を托するものあらずまた未だ木理を知らざる木工に家屋の築造を命じ金質を知らざる鑄工に金器の鑄造を托するものあらざるなり而して獨り嬰孩養育の一段に至りてハ然らず未ゞ子を養ふとを學びて而して後に嫁ぐものあらずなどゝ恰かも嬰孩養育の事ハ學ばずして自得するを以て通常の規則なりと見做すが如きハこれ猶ほ草木の性質を知らざる橐駝に花卉の培養を命じ禽鳥の性質を知らざる鳥屋に小鳥の飼養を托するが如し不道理もまた餘りに甚だしといふべし

但し斯く論じいだし來らば讀者諸君ハ將にいはるゝなるべし彼の未だ子を養ふとを學びて而して後に嫁ぐものあらずとの語の不道理たるとハ今日の世界にありてハ世上一般の人々の既に遍ねく知るところにして今更ら事新らしく論らひ辨ふるにも及ばざる義なり然るにハま編者の業々しくも斯る論題を掲げいだして反覆丁寧に論述せんとするものハ是れ如何なる仔細かある餘りに陳腐の說ならずやと是れ誠に諸君の言の如く世上一般の人々既に遍ねくこの語の不道理なるを知れり今更ら業々しく論ひ辨ふるにも及ばざる義なり然しながら編者の切に憂ふるところハ世上一般の人々のこの語の不道理なるを知るといふハ僅かに口頭のみに於て其の不道理を知るに止まり眞に其の不道理なるを知り且つ心に念じて奮然勇往嬰孩養育の方法を研究せんとする有志家の僅々小數なるにあり看よ看よ諸君試みに眼を我が邦都鄙一般人民の風俗に注いで看よ啻ならず身に嬰孩養育の大任を受けながら其の養育の法をも心得ずして人の妻となりまた人の母となるもの滔々たる

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

天下比々みな是れなるを發見せらるべし然らば則ち是れ僅かに口に嬰孩養育の方法を學ぶの必要なるを知りて未だ心に其のこれを研究するの必要なるを知らざるものにして未だ嘗しく草木の性質を知らざる蒙昧に庭園の花卉を培養せしめ禽鳥の性質を知らざる鳥屋に小鳥を飼養せしむるの謬界に沈溺するものなり其の結果は是れ如何にぞやかならずや最愛の花卉を枯らし可憐の禽鳥を損ずるに至るやまた疑ひあるとなし否な花卉の如き禽鳥の如きは縱令下手蒙昧素人鳥屋の手にかゝりて枯槁し焦悴するに至るとも更に世上に損なくまた人間に害なければ僅かに園主の一嘆聲好鳥隱居の一叱咤にして止むべしといへども嬰孩養育の方法を心得ざる婦人に薄弱なる嬰孩を任するが如きは貴重の人身を貴重せざるものにしてまた最愛の小兒を愛恤せざるものなり其の弊害誠に言ふに忍びざるものあり是れ讀者諸君の編者と共に憂へ給ふべきところにあらずや

（未完）

○婦人諸氏の奮發を希がふ

從來我邦の風習として婦人は嘗て世上公共の事に與からず其職とする所は僅かに臺所の取締りと家内のものゝ衣服の世話を爲す位ゐに止り只何事も男子にのみ依賴して世上の事には毫も頓着せざるの有樣なりされば男子は益々婦人を輕んじ婦人は益々勢力を失ふに至れり是と申すも全く御婦人方に學問のなきが故なるのみ請ひ願ふらくは今よりして少しく奮發ありて世上の事に目を注ぎ衣服の摸樣染色の相談相手や演劇見物の友達衆と申し合され御婦人に相應しくして公衆の事に係る一事業を起し給はゞ男子もいかでか悠々として居らるべきいでや婦人に負けまじと愈々勵み競ふに至りなば我邦の進歩も一層捗りて遂には歐米の文明諸國と肩を比ぶるに至るべし斯くてこそ御婦人方の功績も世に著るく顯はれて男子を賛けて公益を計るなる婦德の旨にも協ふめれ

扨て公衆の事に關り婦人の起すべき事業も亦多かるべけれど就中最も相應しきは教育若くは慈善の事なりとす歐米諸國にても婦人の事業は多く是れ等の事に在り我邦にても貴婦人等は夙に茲に悟る所あらせしと見えさせ婦人慈善會となん云へる會を結ばせてその創立以來日も尙はいまだ淺かるにろの功績は已に公益の上に於て少々ならざるべければ世にもいと喜こばしき事なりけり然れどもこは是れ貴婦人中の貴婦人にして所謂上が上の品にて在はする御方々の事にしあればわずかに我全國の婦人の一小部分たるに過ぎざるべし我が邦小な

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

りと雖も下が下の品と暫く打ち置き中の品より上の品に至りいのでか此外に貴婦人のなかるべき左るよても此慈善會の外よは御婦人方の起し給ひし事業あるを聞かざることそいと嘆かはしき極となれ是れ此篇を草して御婦人方の御奮發を希がふ以所なり歐米諸國に於ても愈々開けたる所よは婦人の起したる事業愈々多しとす依りて爰に北米合衆國華盛敦に於て各婦人會の創設或ハ監督に係る事業の一斑を掲げて其實例を示しまいらせんと欲するなり

華盛敦府に於て婦人會の創設若くは監督に係るものを擧くれば第一よプロビテンス病院なりとす是は慈善の姉妹と云へる婦人會の創設よして政府より米金六万弗を下附して建築費を補助したれども其他は一切婦人會に於て支辨維持する所なり此院中別に一ヶ年七十五名の貧患者に施療するの方法設ケあり」兵卒及ひ水夫の孤兒救育院と云ふもまた婦人會の監督する所なり」又ルイス院と云ふは寡婦を救恤する所にして有名なる慈善家コルコランと云へるものゝ妻女ルイスの創設にかゝれり」華盛敦孤兒救育院も亦婦人慈善會の創設する所なり」此他セント、ジョン小兒病院、セント、アン幼稚院、セントジョセフ男兒養育院、ヴィンセント女兒養育院、ヴィシテーションの貧民學校等皆婦人慈善會の創設せる所なり

◎内外雜報

○御成の御摸樣　皇后宮ハ豫て記し奉りし如く二日午十二時三十分　御歩行にて華族女學校へ成せられ暫時御休憩の後御覽給ひし授業にハ下等小學第二級生の算術科(敎師森田勝)一時十七分より一時三十分に至る上等小學第一級生の習字科(敎師土肥直康)一時三十四分より一時五十一分に至る初等中學第二級生の裁縫科(敎師高山盈、渡邊政)二時より三時十五分に至る初等中學第二級生の內英語科(敎師津田梅子)二時十五分より二時廿五分初等中學第二級生の內佛語科(敎師小鹿嶋筆)二時廿五分より二時三十五分に至る上等小學第二級生の書學科(敎師加納欽)二時三十五分より三時に至る初等中學第三級生の修身科(敎師下田歌)等なりしが親しく臨ませ玉ひて三時十分ころ　還啓あらせられたりと承たまはる

(本年三月四日改進新聞に據る)

○東京學士會院講義　今十三日午後一時三十分より上野公園內の文部省官舍に於て開かるゝ東京學士會院講義の題號幷に講師の姓名ハ「宗敎の前途正員西村茂樹」「動植物の効用正員

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

田中芳男「隱居家督弁に養子の弊害補員重野安繹」「學問の辨補員大鳥圭介」の諸君なりといふ

○府知事と大學總長　東京府知事渡邊洪基君には去る十日に帝國大學總長に轉任せられ元老院議官高崎五六君は東京府知事に任せられたり

（本年三月十一日官報に據る）

○二先生の死亡　かねて菱湖翁の衣鉢を傳へられて著名の揮毫家卷菱潭先生にはかねて病氣にて居られしが醫藥の効しなく遂に去月二十八日を以て死去せられたれば去る三日に谷中天王寺へ葬送せられたりまたこれも著名の和學家久保季玆先生も去る五日に病死せられ同八日に同じく谷中墓地へ葬送せられたり何れも惜しむべき耆宿を失ひたり

○孝子　越中の國下新川郡泊町在の月山村に七左衛門といふ農夫あり家極めて貧しきが老母に孝行を盡すと世に勝れたり七左衛門同村の西田彦平方に雇はるゝと數十年大風雨等ある時は必らず主人に暇を請ひ家に歸りて老母の傍に附添ひ居れり又寺參などする折りは往復とも自身介抱して歩ますると恰かも子供を守りするが如し近邊のものも其の孝心と其の貧窮とをあはれみて時々雜炊（菜或は蓬の葉大根などに少許の米を入れ炊きしもの）など與ふればみづから飯を取り出だしこれを老母に與へ其の殘りをみづからも食ひまた妻子にも分ち與ふされば此の振舞を見る人聞く人感ぜざるなく其の住む家の稻番小屋にも劣り風雨をふせぐすべさへなきを見て村內一統申合せ一棟の家を作りて與へし程なり此等の事いつしか縣廳に聞え奇特のものなりとて此の程若干の金圓を賞賜せられ戶長もまた辭を添えて御賞與の次第を說き聞かせしに七左衛門は打かたぶきて私し事是まで孝行といふ事を致せし事なし何に依りて此の御褒美を戴くべきや甚だ不審に堪へずいとて容易に受け取らず戶長は猶も說き諭して汝の今迄の老母へ仕向けたる行ひが即ち孝行なり何が孝行とて此れが孝行といふ際立ちたるものにあらずさて其の金を戴かせしが七左衛門は其の後此の御褒美に報ひ奉るべきには如何なる孝行といふ事をせば宜しからんとて頻りに心配をするといふ優しき志ありかしと本年三月二日發行の東京日々新聞に見えたり實に感ずべく倘とぶべき振舞にこそ

○水產共進會　同會の開期も追々近つきたるにつき各府縣より同會事務所へ廻送の物品夥多到着し一昨日より上野公園地內事務所へ運搬に取り掛られたり又た四月十八日褒賞授與

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

式のせつ招待の貴紳及び一同へハ水産製造物を以て饗應あるよしなるが其のせつ古風なる鸚鵡具の形を摸造せし盃一個宛を贈らるゝ都合ありと又た出品優等者にハ一等より四等迄の賞牌を下付せらるゝよしなるが是ハ金銀銅に分ち何れも海河兩神の像を鑄造せしものなりといふ

○織物聯合共進會　今度九州各縣の織物家が聯合協議會を熊本縣下に開會して夫々組合を設け組合中互ひに氣脈を通じ勉めて粗製を防ぎ大に改良を謀らんとするに付いてハ其の道に熟達なる敎師の臨場を得たき旨を其の筋へ稟請に及びたるを以て農商務省工務局詰めの權少技長荒川新一郎氏にハ同會へ出張を仰せ付けられ本日出發せらるゝよしなり尤も同會は來る十五日頃より開會の筈なりといふ（以上二件本年三月七日發行東京日日新聞）

○娘の大坂行　可愛娘を思ふ男に添せんと自己が命を棄る親ハ芝居や浄瑠璃にハ見聞それども今の世にも夫れに似寄りて慈愛に過ぎたる親ごろわれ日本橋邊とのみ聞きて町名も判然せされども或る家の娘ハ俳優の片岡我當が贔負で彼れが出勤の芝居ハ替り目毎に見物し風を引いたのも胃を損じたのも彼れが寫眞を見れば卽座に平愈なすといふ隨分困つた娘なりしが此のたび我當ハ郷里の大坂へ歸る事になりたるより娘の愁傷大方ならず我當と一所に大坂へ往きたし若しさもなくバ食を斷つて死なんとて三度の食も碌にハ食はず漸々瘦せ衰へるを兩親ハ氣遣ひ仔細を問へば前の始末困つたものと額に皺をよせ親類とも相談したるに成らぬといへバ死ぬといひどうで娘を一人り捨てた積りで寧そ望ミの通り大坂へ遣るが宜からうと稍やく相談一決し心利きたる人を我當の方へ遣ハしわりし次第をのべ下女同樣に此方の手許で遣つて下さる事ハなるまじくや若し御承知とあらバ旅費幷に當分の喰雜用として金五百圓差し上げ置くべしとの囑托に我當も迷惑ながら人の命ちに係ハる事といふので稍と承諾せしかバ其の人も使に立ちし甲斐ありしを喜こび歸りて承知の旨を兩親に物語ると兩親ハ素より娘ハ天にも登る心地と雀躍りし衰へし元氣も忽ち復し夫れより我當夫婦と件の娘と三人對の小袖袷を幾重ねとなく新調し大坂へ持ち行く支度最中なりとか身の内の腐りハ斷つて捨るが跡の養生と妹脊山の大判事がせりふをこの娘の父に味わハせたき事にころと本年三月六日發行の警察新報に見ゆ皆さまこの義ハ何う思しめす

○糠みろ　世間に糠味噌漬けの香の物が美味ければ其の家の女房ハのならず働らきものなりといへど是れハたゞ手まめ

二百一

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

に日々掻き廻し腐敗せしめざるを能えとすれバ女房のまめなるに譬へたるならんか此の糠味噌といふものハ臭氣の至でく悪きものにて此の匂ひにおいてハ好なる人ハ決してなかるべし然るに此の悪臭を防ぐの法あり米の白水の成るべくたけ濃きを一度煎たてゝ能くさまし是れと新糠と鹽とを適宜に交せて桶瓶の類へ貯ハへ何なりと野菜を漬け込むべし其の後も新糠を入るゝ毎に此の法の如くすれば其の臭氣を防ぐのみならず味ひ最とも美なりと或る人の語りぬと本年三月四日の同新報に見ゆ如何さま斯くして糠味噌の臭氣の抜けたらんにハ至つて輕便にして且つ有益の方法といふべし

○文部省視學官　文部省視學官江木千之君ハ第四地方部擔任を同吉村寅太郎君ハ第五地方部擔任を同野村綱君ハ第一地方部擔任を同中川元君ハ第二地方部擔任を同久保春景君ハ第三地方部擔任をいづれも去る八日に文部省に於て仰せ附けられたり（本年三月九日官報に據る）

○編者白す　四方頴才諸公諸娘の詩歌書翰和漢文章論説寄書何くれとなく本誌に登録して以て看官諸君の相互ひに切瑳琢磨せらるゝ一助に供へ申したくと存し候間誰方さまも御得意の高作あり次第陸續御投寄下されたくさすれば敝舎に於て、ハ拜覽のうへ一々評點を加へ御投寄の順序に從がつて成べく速かに登載仕る可く候又御投寄原稿へハ御住居府縣町村番地御姓名等詳細御認め下されたく字號ある諸君ハこれまた御記入下されたく且つ原評これある御向ハ御添え下されたく候

◎内外烈女傳

○筑後の國のおたき

筑後の國三池の郡飯田村のうちなる字を朝日谷といふハ四方深山にかこまれて世間をはなれたる僻地なるがこゝに想助といふ百姓ありけり山岨の瘦畑そこしばかり持ちて耕作のひまにハ木こり狩人などして僅に世を送るばかりなれば其の貧しきはいふ迄もなしさる程に一とせ調賦にさし迫りて家宅其のほかさな賣り拂ひ家を分散したりければさらぬだに立てかたき日々の烟りのなほさらに消え果てゝ如何にとも詮方なきに世の諺にもいふなる泣顔に蜂とかや其の翌年の春より想助ハ風の心地と打ち臥したるがかりそめの事と思ひのほか日々に衰ろへまさりていつ本復すべしとも見えざりけり想助の妻ハたきといひけるが斯る片田舎に敎へなく育ちながらも其の心至つて實々しく誠ある性なれば湯藥に侍りて病牀をはなるゝ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

と能はざれども別に家内の活計をたすくべき人なければ看病のいとまくに附木をけづりみづからこれを荷ひて遠く隣國なる肥後の國までも持ちまはり賣りあるきてわずかの價ひを得てそれにて日々の活計を營なみひたすら藥餌介抱に心身を盡しゐるおたきが心づくしの甲斐もなく想助はつひに身まかりぬされば おたきの悲歎はいふべくもあらず我が身も共に斷え入るばかりに泣き悲しみしか斯くてあるべきにあらざれば近きあたりの村人等に慰さめられて泣々野邊送りの形ばかりをなしいと懇ごろに弔らひたるが跡にのこりたるは老母ちよ六十余歳長女とめ七歳二女なつ五歳長男千代次三歳にて一家五人健やかなるはおたき一人りにて餘はみな老人と幼子の足手まれりばかりなればおたきは身を粉にして働らけどもいかでか一婦の手を以て四人の口を養なふことのなるべき遂には必死の困窮に陥りたるを近隣のものらは深く憐れみて其處は田舎人のたのもしげにまづ雨露を凌ぐばかりの小屋を建てゝこれに住まはせかたみがはりに何くれと心づくるにぞおたきも亦たいたく志ざしをはげまし是れより生魚を鬻ぎて生活のたづきをなさんと思ひ立ち晝夜のわかちなく險岨をわたり山谷を越え七里の路を日ごとにかよひて肥後の長洲の海濱に赴き數多の生魚を買ひもとめては擔ひ歸りこれを近邊の村村にあきなふその朝日谷にのへる處は一里にあまれる深山にて松杉森々と天をおほひ巖滑らかに苔むして晝だに小暗き場處なれば大の男も一人にては往來せざるところなるをおたきは孝と慈愛とに凝り固まりたる一心にて更にこれをおそろしとも思はず日暮れ曉つきのわかちなくたゞ獨り魚を荷ひて往來したり然るに一とせ夏の事とかやおたきは例の如く長洲の濱にて生魚を買ひ求めこれを一荷に搔き擔ひて急ぎ我が村へ戻らんと頻りに道をたどるものから七里にあまる道なれば夏の日いとゞながしといへども烈しき炎暑に体つかれ足たゆみて女の歩みのはかどらず一里の山路にかゝるころは日も早や西に傾ふきて向ひの山の樹立ちに隱れ涼風漸やく立ちそめて嶺の草葉をうがゝす程に初夜をすぐるころになりけるが夏の空の癖として今まで夕月のきらめきたるも次第に雲の色あしくなり忽ちにして一天墨を流せるが如く鼻をつまゝるゝも知りがたき迄の闇々なりしかばおたきいとゞ氣をいらちて村雨のふらぬ間にといそぐ折りから向ひの方に人音して何物とも知らず來るものありはて不思議やな夜に入りて此の山路をたどるものは我れより外にまたあるべしとも思はぬに何人の來

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

りしまや若しや山賊にもやあらんかと驚ろきながらもちつとも動せず暫し歩みをとゞめて其の爲体を伺がふに夜目にてしかとハ分らねど丈け高く肥えふとりていとおどろ〳〵しき男の長き刀を帯びゐるなりけりおたきハ扨こそと思ひながらも左あらぬ体にもてなし道の傍らに避け歩みて急ぎ往き過ぎんとするを山賊ハ目ばやく見とめてそのしつゝ打ち眺めこハ得物ありけりと打ち笑みながら双手をやをらさしのべておたきの擔ひたる荷籠をしつかと握り止めたりされバおたきハ絶体絶命つきのけし走り去らんかと思ひしがいや〳〵さらぬだに女の歩みハ男に及ぶべくもあらざるにまして荷を擔ひながら如何にして此の山路を逃げ果すべきさらば協ハぬ迄も武者振りついて賊と雌雄を爭ハんか是れも餘りに短慮なり老いたる母と幼きものを抱へたる身のなすべき業にあらず兎やせまし斯くやせましと急遽しき折りにも前後の思案を廻らそに忽まちに一策を思ひ附け同行の人あるさまにもてなして聲をふり立て盗賊あり〳〵人々はやく馳せ來りて救ひたまへとよバむとりしほどに賊ハこれに欺むかれて連れありけりと思ひけれバ捕らへられてハ一大事と周章狼狽き逃げ去りければおたきハ虎の口をのがれたる心地しホツト一息つきもあへず又たも危難にあはざるうちよと急ぎ荷籠を引き擔げてひたバしりに馳せ歸りぬされば世の常のものならんにハ一たび斯る危難に遇へば其の後ハ怖ぢ畏れて再たびさる山路を往來すべくもあらざるに貞心堅固のおたきなれば心力さらに撓ゆむとなくなほも晝夜のわかちなく此の山路を往來して生魚を賣買ひすることと既に年ごろよ及ぶものから元來生魚のものたる其の漁獲の多寡によりてその直段の高低さだまりなく朝ゆふに變遷すればもとより馴れぬ女の事なり今日ハ利を得しと見えたるも明日ハ忽まち損失を生じて財本の錢を失なひつくし可得も更に無くなれることなりさる時ハせんかたなく鷄鳴の頃ろより山に分々入り枯木落葉をひろひ集めこれを賣り歩きて糊口の代に充てまた財本の錢に當てもして再たびもとの如く生魚を賣買ひし精を勵まし身を困しむると血氣ざかりの男の子にても及ばざるばかりに艱難苦勞を凌ぎつゝ年月をかさね來りしかバ漸やくに利潤を積みて一家の衣食に欠くとなく老母に事ふるよも三度の食事のうち一たびハかならず口に適する物を供ふるに至りぬまた幼子を撫育そるにも專ら慈愛を旨とし盡して一身の節操ハさらにもいはず近所合壁同村内の人々と交誼を厚くし賤の女ながらもかくの如く刻苦して他人の扶助を仰

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

かずりひに若干の俵米をつみ貯はへて不時の窮乏に充てたるなど其の心を用ひたるは今の世には有りがたき女丈夫なりけり

○武昌縣の奇女子

小龍窟主人譯す

大凡そ世の婦人たるものは能く從一の義を守りて死そるよ至るまで其の操を失なはざるこそ一定の常經不易の道理にてあるされども事あるひは一家の生命に關係する時に當りては亦或はわが操を破りて一家の生命を救ふとをはゞからざる事を得ずされば是れ等の場合に臨みて縱令操を破りたりとも苟且にも其の心の淫けたるに出でしにあらざるよりは未だあながちに其の婦人の所行を非なりとしてこれを責め罵しるとを得ざるべし徃昔し源の義朝の嬖妾常盤の前の母と子の命ちをたすけんとて夫の仇讎なる平の淸盛に身を任せしもこの類ひよやあらんの但し己が身の操をも破らずまた一家の生命をも助けて始めより終りにいたるまで心をまげて堪え忍びさらに悲しみの色をもあらはさず又た怨みの詞をも出さずして事の萬萬整のひ余たくなりたる時に至り忽まちに身を捨て命ちを拋うちて淸節をあらはせる婦人あらば誠に其の節のよみすべきのみにはあらで其の才その量もまた及ぶべからずとや申すべけんされば古人の詞にも慷慨して軀を捐つるとはやすく從容として義に就くとはかたしとかや是れ畢竟男子の身の上について云ひし詞なるべしましてやかよはき婦人の身を以て從容として義よ就くものは宜しくこれを書よ記し圖に畫きて後の世の敎へ草ともなそべけれ抑々記者が斯る枕書を措きて今まづこゝに說出だす一條の物語りは支那國の婦人の操を破りて却つて操を全うしたる前代未聞の奇談にぞある頃は明朝崇禎の初年とかや朝廷の政事大に乱れて奸けたる官人ら專ら邪まを行なひ民を虐たげしより天下の人々みな其の堵に安んずると能はず往々怨み憤ふる心を含みたるよ乘じて李自成張献忠となんいひける二人の大賊愚民を煽動して乱を起しゝかばさなきだに產業を失なひて甲處乙處に流らひ鼠賊を働らき人を劫かし來りし惡黨ばら四方より起りてこれに應じ所任に黨を組み群を集めて城邑を攻め掠め良民を屠り殺せしと十餘年の久しきに及びし程よ明朝四百餘年無缺の金甌をとつて流寇賊虜の手に碎き唐土八百餘州錦繡の江山を擧げて妖分戰塵の中に埋め畢んぬ去程に賊の勢ひ次第に洪大よ至る儘に其の大いなるものはみな數州を并せ有ちて僭りて王公と號し其の小なるものも各々一方に占め據りてみづから將軍と稱へ疆を分ち

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

城を守りて恰かも往古列國の如き有樣とありぬされども元來無慚の白痴共なれば凡そ一郡を陷ゐれ一邑を破る度毎みをべて人を多く殺すを以て快よしとなし更に仁惠慈愛の心あるとあらざれば其の過ぐるところ往々荒野とならざることなく老弱男女生き殘るもの甚だ稀なり但し年なほ少くして姿貌いつくしき婦人ハ捕へて陣中よいて歸り賊將の嬖妾として淫慾を恣まゝにするより辱を忍び操を破りて其の心に從がふ時ハ或ハ生命を保ち得べしと云へどもこもまた誠の愛情あるにあらざれば少しよても其の意に逆ふとある時ハ忽まちに斬りさいなまるゝに依り捕られて嬖妾となりしものも表てにハ笑ひを粧ひ媚を獻ずるといへども心に

二百六

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

は悲しみを含み憐れを抱き明け暮れたゞ惴々として安き心はあらざりけり此の時湖北武昌の縣に封氏といふ婦人ありけり誠に天の成せる麗質にやありけん生れ得て白雪の膚妙に楊柳の腰嫋やかにして髮は緑りの雲を縮ね顔は紅ひの花を點して一たび笑めば百種の媚を生じ再たび笑めば萬乘の城を傾ふくべき明眸皓齒の有樣は心を動かし想ひを掛け妻にや娶ふん妾にやせんと望まぬ人もなかりけるが神の結びし縁しにやありけん年十五といふ春に同じ縣の張秀才とて讀書人の妻となりぬ（記者曰そ本篇餘りに長文に渉りたれば壽樣の次第は次號に掲載すべし）

○武田勝頼の御臺所（標書の傳）

甲斐の國主武田勝頼の御臺所は相摸の北條氏康の姫君なりけり天正十年三月のはじめつかた尾張の國織田の上總介信長みやこの勢を引きぐし打つて下りし程に武田の侍悉ことくに心替りせし中にも小山田兵部といふもの人質に取られさるヿが母を取かへさんがため勝頼を賺しまいらせてわが所領都留の郡近く誘き出しさて母を奪ひて逃去りし程に陣中俄かに騷ぎ立ち邊りの家に火を掛けされば逍かに猛き勝頼もあるにあられぬ御有樣目も當られぬ氣色なり斯くては協ひがたし天目山へ越して一もち持ばやとて駒の頭を振向け給ふに餘多の兵ふせぎければ此處彼處に立ち給ひて籠の内の鳥とのや網代の中の魚とかや溺れて往くべき方もなく僅のなる田野といふ處に馬を寄せて息らひ給へば御臺所おほせけるよう斯る野原の有樣思ひもよらずや斯くあるべきと知るならば韮崎にて如何にもなるべき身のこれまで來りて屍の上の口惜さよと御涙を流し仰せければ頼勝聞し召しみづからもさこそ思ひつれども彼の者に賺られしと申され御身痛はしきと思ひ參らせし故なり事は如何にと申すに彼の都爾の郡と申すは相摸近き處なれば如何なる風の便りにも御身故郷相摸へ送り參らせ我身如何にもならんと思ひし故なりと宣へば御臺所聞しめしてこは如何なる仰せじや譬へば人許し輿車にて送るとも歸らんと思ひもよらずや一つ蓮の臺の縁と思ひ染めたる紫の雲の上まで替らじと契りを結ぶ玉の緒のあらん限りは固よりも絶えての後も別れめやと宣へば勝頼聞しめしいしくも仰せけるものかな御身の心まだきより斯くこそ見たてまつれとてたゞ此のありどころ見苦しとの仰せなるやある文に曰く三界無安猶如火宅また十方空と觀ずればいづくを有と定むべきたゞ妄想の戲れなりと宣へば御臺所聞しめし誠に左樣にて侍べると宣ひて斯

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

くこそ詠じ給ひける　野邊の露くさばのほかに消えて後（以下欠く）勝頼聞しめし喜びては歎きなげきては喜び宣まふところへ人來りて敵は早や善光寺邊まで參りたると申ければ最後の御盃とて御臺所とりわげ給ひて勝頼にさし給ふまた御臺所へさし御臺所の御盃を御子信勝へさし給ふ信勝の御盃土屋に下さるゝ夫より後は心々の思ひざし酒宴も半ばの事なるに土屋己かを近づけ笏立て直し申すやう斯る野原の御有様見たてまつれば心も乱れ肝消えて眼も眩むばかりなり斯くなふせ給ふは如何にと申すに御内の人々の心替りの上なればさこそは此方をも御心や置かせ給ふらんと朝夕氣遣ひいたすなりさもあらざりしるしを御目に掛んとて五つになりしわかに向つていひけるは汝は未だ幼少なれば人の連には歩みがたし御先へ罷り越し六道の衢にて君待ちたてまつれ父も御供申すべき西へ向つて手を合せ佛念申せといひければ父が子にてあるあひだ承たまいると申して楓のようなる手を合せ念佛三遍申しければ腰の刀をひん拔いて胸元にかし當てかしてへがばと投け棄つる勝頼此よし御覽じて餘りあへなき事を致しけるものや最後の詞をも掛けやらうずるものをと宣ひて御涙を流し給へば御前なる人々まで皆小手の鎖をぬらしける御臺所此よしを聞しめし何に土屋が己かを害じつるか哀れなると宣ひて御衣の袂を顔に當て給ひて暫しはむきも上り給はず稍々ありて御臺所仰せけるわかの母の心の中の不愍さよとて若が事をあそばし母の方へ送り給ふ　殘りなく散るべき花の暮なれば梢の花の先だつはうきと遊ばして賜らせ給へば女房わきまへなくて居たりしが御詠歌のよしを承たまはり少し心を立て直し三度いたゞき涙の間々に見て恐れながら御返し申さんとて斯くぞこ詠じ參らせけれ　甲斐あらじつぼめる花は先だちて空しき枝のはゝ殘る共その後土屋女房に向ひて云けるは若が妹二歳になりしをゑ汝に取するあく何方へも連往き若し長ふへてあるならば尼にもなして父兄が記念とも見よと云ひければ女房聞て溥情の人の云事やあの若に離れ御身に捨られ又世に長らへんとは思はず同じ道にと思ふなりと播口説き恨みける

（未完）

◎英語の栞

附羅馬字ばなし

従來和英羅馬字對譯と題する欄内にいろはがるたの翻譯を載たりしが彼のかるたは看客方にとさのみ御目新らしくもあらずと存じまいらすれば今般舍中相議り本欄を設け歐米

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

よてハ世に行るゝ諺の類を箴言、要語、諺語、俚諺の四種に分たるそが中ゟ毎號一二を取出して之を欄首よ掲け次に泰西の道話寓言等を翻譯し羅馬字を以て記載すべければ益々、愛覽を賜ひ英語若ハ羅馬字を學び給ふ姬君等の一助ともなりなば舍中の幸ひにてぞある

○泰西箴諺の直譯

（甲）㊀苦㊁無く或ハ絶て無く㊂所得、利益、勝利㊃㊁に同じ

（乙）㊀英國の銅錢一錢なり我が凡そ二錢に當る㊁才ある㊂英國貨幣の名凡そ五圓に當る㊃愚なる

（丙）㊀宥恕すること（ハ）㊁最も高尚なる㊂復讐、返報（で）㊃有る

（丁）㊀累、難儀、迷惑、面倒（が）㊁爾（を）㊂累とす㊃迄㊄決て㊅㊀に同じ（を）㊆㊂に同じ㊇勿れ

MAXIMS & PROVERBS.

泰西の箴諺

（甲） No pains, no gains.
㊁ ㊀ ㊃ ㊂

〔意譯〕苦しみ無れバ得る所なし

（乙） Penny wise, pound foolish.
㊀ ㊁ ㊂ ㊃

〔意譯〕壹錢の才ありて壹圓の愚

（丙） Forgiveness is the noblest revenge.
㊀ ㊃ ㊁ ㊂

〔意譯〕最も高尚なる復讐ハ宥恕よ在り

（丁） Never trouble trouble, till trouble troubles you
㊄㊇ ㊆ ㊅ ㊃ ㊀ ㊂ ㊁

〔意譯〕累の來つて爾を累とするよ非れば決して我より累を累とする事勿れ（自から我が身を累とすること勿れと云ふ意）

URANAI-SHA NO SIKUJIRI.

Aru kata-inaka ni uranai-sha ari keri. Aru hi hitori no otoko iri-kitari, waga mi no ue wo uranai tamaware to koi keru nizo, kano uranai sensei wa sibasi kubi wo hinerite itarisi ga, kokoro no uchi ni omou yō, Kono goro wa shōbai mo hima-gachi naru ni kono hito no kitaritaru koso saiwai nare, mi no ue no handan wo yoki ga ue nimo yoku iite, kare ga kokoro wo yorokoba-simenaba, uranai-ryō mo ōkaru-besi to kano otoko ni uchi-mukai, "on mi wa tōkarazu *tomi-sakaete mi no saiwai ōkaru-besi, yume utagai tamai so*" to ii-keru nizo, kano otoko ōini yorokobi kotoba no rei mo sokosokoni ato womo mizusite ide-yuki keru. Uranai sensei ōini odoroki: "Mosi ! Mosi !" to yobi-tome, "uranai-ryō wa ikaga

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

desu?" to ieba, kano hito fusin-gao nite furikaeri: "Ē; nan-desu orei desu ka? Anata wa kako, genzai no koto wa mo-toyori mirai no koto made yoku *osiri nasaruni*, Mā! Watakusi ga ichimon mo mo-tanu to iu koto wo *gozonji de arimasen desita* ka? Mā! *Tōkarazu tomi-sakae masu* kara sono toki harai-mashō!"
—*Doitsu-bun no honyaku.*

◎群芳詞苑

初春霞　　和田外面
來る春をあらはすものは足引の山の端かくすかすみなりけり

○　　谷山源右工門
山姫の雪のしらきぬ今朝よりはかすみの袖にかへてけるかな

○　　高寺眞風流
よし野山かすみとめたる今日よりそ匂はんもなの面影にたつ

松殘雪　　橘　濤子
冬とはるを松の一木に見せてけり梢はかすみのげはしらゆき

○　　森田米子
寒けさも千歳までとやのこるらんまつの梢のもきのむらきえ

○　　橘　禮子
いかはかりふり積りたる跡ならんまつの木蔭に殘るしらゆき

○
臥龍梅の記　　成嶋司直

淸水のみとのゝ御別墅とり〳〵なれと殊の海顔の見るめをかりて木立石のたゝすまひ見所多きは柴浦の御園ありそか中に龍の臥たるさまして花そ昔の香はかくれなく咲出る古木の梅ありこの御園そのかみは武士の道にもくれ名を高麗もろこしまて顯はせる加藤左馬助嘉明の住家なり嘉明か女は日野中納言光慶卿のかたよよるへさたまりしかは其子大納言弘資卿鳥か啼あつまの御所に御使としてまたせられし時祖父のちなみありとて嘉明かやとりに立より侍しにこの梅の咲出て海紅のゑんなりしをあかすのへり見かちにて

庭ひろみ龍の臥かとかへりみる袖に苔ふる梅のゑた風

とよみてかき殘しけるとそかくて星うつり霜ふりて寶暦のころ嘉明の孫和泉守嘉矩かときこの所をかへられ淸水とのにつけ給へは其程資祐の待從て聞えしは嘉矩か聟のねにてかの大納言にも曾孫なれはかれといひこれといひ芳しきあとをゑたひこの花を接木となしみつからの家にも傳へんとてこなたの御かしつき村上肥前守義方につきてねきたるまゝ義方そのよ枝を折ておくりしかは侍從本意かなひしうれしさに嘉矩か家にひめ置ける故大納言の筆のあとたと〳〵しからす寫して奉りたりゑかりし後は花の匂ひも筆の色もいやろひにそひにたれとふる宮とふりにしよりこのかた何事も雪の下草埋れはてゝさたのあらさりしをこたひ其ゆくをつはらにたゝし小野安藝守近義をはしめおもと人これかれ其外の人ゝまても歌よみ

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

詩のくりてまいらする事とハなりぬ君きひハなるはとよりかかやくはかりうるはしき御本性にてわたらせ給ひしか今こゝにそつらせ給ひてハ彌斷たるをつきそたわしを興し給ふ御いつくしみ深けれはたれも〳〵涙落しかしこまさるハなしかゝる時にあひて咲や此花の色のも今を春へとあらはれしハしれしかしなからおもと人たちまめたち輔けまいらするいさほしなれハこの末も内外の人々この心うせやらて導き春日御惠の廣く及ハむ事をとねき思ふまゝはゝかりの闕のとゝかり多きことゝもをいな舟のいなみもやらてしるす時ハ文化十まり一とせ彌生になむ

○

中井縣令の近作　頃日同君より我社長に寄せられたる手紙の末に近作なりとて左の數首を載せられたり錄して江湖の一粲に供す

江州雜詩　　櫻洲山人

太湖雨是比良雪。半日陰晴不可知。欲問郡雄割據跡。古城殺氣已依微。

安土古城湖水東。英雄事跡憶威風。繖山尽處停節立。愛智神崎一望中。

旅客休言行路難。三千兵勇鎮湖山。闕門不鎖大津市。総在祥烟瑞靄間。

詩酒偶爲汗漫遊。春風吟客入江州。湖雲嶽雪斜陽外。三井鐘聲動旅愁。

賤嶽烟雲城壘荒。姉川南去欲斜陽。長濱鐵路達梁瀨。滿目青山舊戰塲。

又左の詩ハ去年中伊藤總理大臣が中井君を訪ハれし時の作なりとて

訪中井櫻洲詞伯　　于江州　春畝山人

官遊入洛纔經旬。又向江州訪故人。二十年間如一夢。交情未必說清貧。

右の一首を載せ其跡に此詩ハ伊藤公が一世一代の名作なりと重野翁ハ評したりと記しありたり（本年三月七日東京日日新聞）

偕樂園雅會席上呈姚君文棟幷送其行　　山吉盛義

楊州烟月晁衡留。墨水櫻花徐福舟。各客天涯探韵事。君東游似我西游。

一盞送君歌未成。溥醪殘夜儘愁情。子規叫落離亭月。恟聽不外歸去聲。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

恨却瞻刑一日遲。相逢時是相離時。他年他國如思我。試讀秣陵題壁詩。

和原韵　　姚 文 棟

久客綴停故里騮。爪泥還憶秣陵舟。長風萬里徃來使。莫學宗生祇臥游。

仝上　　張 滋 昉

擁後旌旗導八騮。風流晁監誤扁舟。君今萬里歸來日。禹城山河話北游

◎女紅

○ツールン氏西洋料理法の翻譯

賄ひ方の心得　賄ひ方即ち普通の暮し向きよてハ一家の主婦たるもの日々食事の賄ひを爲すに當り最も肝要なる心得とも食物を粗末に取り扱ひ又たも閑事抔のなきやう能く〳〵意を用ゆべき事よて食物の何種に限らず假令その切れ端なりともこれを放下し捨つる等の事ありてハ乃ち所夫の財産の一部を消耗するものなればゆめ〳〵左る注意を怠る事なのれ是れ一家の賄方第一の心得なり

扱て家婦も毎日朝餐前よその日の食事の献立をコックに命じ置き尚ほろの巨細なる事を速のに食料室に至り自らそれ〳〵差圖するを以て最も便宜なりとす又コックにハ常に懷中版と鉛筆とを渡し置き其一枚の方にハ毎日命じたる献立の次第を記載し他の一枚にハ牛乳・パン等の如さ日用品の買入れを記載せしめ一週間の終りよ至り家婦自ら之を雜費勘定帳に記入すべし

總て諸拂ひい可成一週間毎よ仕拂ふべし万一三ヶ月拂ひの買物あらば其代價をも毎週に取調らべ賄ひ諸雜費の計算に加へ置き決て漏れざるやう意を用ゆべし斯の如くする時ハ何時にても賄ひ諸雜費の明細を知るに便なるべし

○はたをりの歌　　橘 季茂

花園左大臣家に始く參りたりける侍の名簿のはしかきに能ハ歌よミと書たりけりおとじ秋のはじめに南殿に出てはたをりのなくを愛しておハしましけるに暮けれバ下格子に人まいれと仰られけるに藏人五位たのひて人も候ハぬとやて此侍參たるにたゞさふハ汝おろせと仰られけれは參たるに汝ハ歌讀あと有ければかしこまりて御格子おろしさして候に此はたをりをバきく〳〵や一首つかまつれと仰ふれければあをやぎのとはじめの句を申出したるをさぶらひける女房達折にあハずと思

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ひたりげにてわらひ出したりけれバ物を聞はてずしてわらふやうあるを仰ぶれてとくゝかうまつれとありければ

おをやきのみどりの糸をくりおきて夏へて秋ははたをりぞなくとよミたりければおとゞ感じ給ふて秋おりたる御ひたゝれおし出して給ハせけり

○手枕の夢

爰に中むかしの事にや廣庭のかたはらに草村國のむしの主をは大將官蟷螂の大臣とて家に傳ハる斧をとつて龍事にむかふ名將たり政事正しくふく風草木をうごかさず蟻といふ虫のうそひく時ハ五日の風枝をならさず十日の雨つちくれを動さずつゆ草のみつばよつばの殿造り霜の梁露の貫千種の色を輝やかす御臺虫をハ機織御前と申けり果報めでたく榮へさせたまへとも御子のなきを悲しみ給ひ其頃築山の景よ熊野の体をうつしたる三寸四面の宮有し夫婦のむし此宮に詣で給ひ男子に、ても女すまても虫の子授けて給ハれと深くきせいをかけ給へし御臺虫の德學想に露の玉を呑と見給ひ程なく懐胎ましくて姫虫ひとつ産たまふ(次號へつゞく)

此篇何人の作なるを知らず寫本にて傳へたるが其作意も面白く文もまた高妙なれバ順次毎號に掲ぐべし

舍告

看客諸君へ御詫 第十三號去ル十三日配達致す可きの處活版機械よ損所を生じ爲よ今日の發送よ相成り(一日延日)何共申譯無之最早機械も堅固よ出來せり以後必す期日よ發送仕候間看客諸君寛恕を乞ふ

廣告

十九年三月十三日發兌
團々珍聞五百三十五號目錄

一洒蛙說　旅は道づれ
一珍報　種々
一狂畫　蛸の開嘩の圖○早取謝賓の圖
一和漢欄　狂詩歌句都々一
一出放題　變語解答幷に新題
一英和對譯　一擧兩便○耶蘇信心の女及これと問答したがる友
一內外奇譚　滑稽瀛車栗毛　第六回
一一週要報　種々○東京各新聞社說表

發行所　東京神田雉子町　團々社
大賣捌　同　同　驥々堂
同　安藝國廣島大手筋一町目　早速社

佛國女學士路易達爾克原著　伊藤重固君譯
東京大學敎授櫻井省三君閱　山成哲造君校
西洋束髮秘傳 附 化粧秘傳　全一冊美本
密書廿七入　定價六十錢　郵税共六十四錢

此書は西洋に名高き佛國風の束髮及化粧の秘法を示すものにて種々の束髮を自身に爲し得る法を說明し其他髮の療治法を數多傳授せり又化粧術は我邦にて思付ざる奇術多し御購讀の上御試驗あらんとを乞ふ

東京神田雉子町
大賣捌所　團々社支店

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○小學敎文雜誌

大形美製一冊二十頁　每月三回發兌　定價一冊四錢

欄ヲ分チテ三トナス曰ク文話曰ク文英曰ク文範文話ハ唐宋諸家ハ固ヨリ論ナク吾邦先輩ニ至ルマデ苟モ作文賦詩ヲ資スル者ハ一切網羅シテ遺ス所ナシ文英ハ江湖靑年諸君ノ文詩歌ヲ掲載シ之ヲ改竄シ之ヲ批評シテ一ノ餘蘊ナカラシム文範ハ和漢古今ノ鴻儒碩學ノ文詩ヲ登錄シ一々文法詩格ヲ講明シテ作文賦詩ノ要ヲ知ラシム加之時々歐文ヲ掲ゲ之ニ和譯ヲ施シテ譯文ノ要ヲ領得セシム又每月文詩歌ノ題ヲ課シ遍ク諸君ヲシテ之ヲ作爲セシメ其優等ノ者ヘハ無料ニテ壹部宛拜呈ス其編輯ノ精選ナル改竄ノ鄭重ナル實ニ文海ノ指針文山ノ一枝トモ謂フベキ好書ナリ

本紙代價表

部數	本誌郵稅價	郵券代用
五部	二十四錢	二十六錢
十部	四十七錢	五十二錢
二十部	九十錢	壹圓
三十部	壹圓三十錢	一圓四十三錢
壹年卅六部	壹圓五拾錢	一圓六十五錢

廣告一行代價

一行十九字詰	一日	二日以上五日迄	六日以上
自一行至十行	五錢	三錢	二錢五厘
自十一行至卅行	四錢	二錢五厘	二錢
卅一行以上	三錢五厘	二錢	一錢七厘

發兌　東京馬喰町貳丁目　興文社

驛遞局認可

小牧櫻泉先生序　藤野海南先生序　松村南涯先生著

○詩文用材故事詳解

全一冊　定價郵稅共廿四錢　郵券代用不苦

詩ヲ賦シ文ヲ作ルニハ典故ヲ解セザルベカラザルハ固ヨリ言ヲ俟タズ然ルニ世ニ典故ヲ解釋スルノ書甚タ少ク一二之アルモ粗漏杜撰概ネ看ルニ足ラズ此書ハ南涯先生多年六經百家ノ書ニ就テ典故ヲ剔抉シ之ヲ乾坤時候等ノ部門ニ分チテ一々解釋ヲ施シタレバ典故ヲ捜索セント欲スル者ハ一タビ卷ヲ繙カバ地ニ俯シテ芥ヲ拾フヨリモ易カラン事實ニ文人韻士座右ニ一日モ欠クベカラザルノ珍書ナリ

發兌書肆　東京馬喰町貳丁目　石川治兵衛

發行所　東京々橋區南鍋町貳丁目拾壹番地　績文舍

持主兼印刷人　松本義弘

編輯人　山田常治

女學叢誌賣捌所

東京芝區愛宕町一丁目三番地　大賣捌所　修正堂
同　神田區淡路町　同　巖々堂
同　神田區雉子町　團々社
同　日本橋區新葭町　尾明堂
同　牛込肴町十七番地　活神堂
同　芝區愛宕下町二丁目　高槻堂
同　蠣殼町貳丁目　信文堂
同　本郷區本郷元富士町二番地　盛春堂開田
同　同本郷春木町貳丁目　解明堂
同　元數寄屋町壹丁目　東海堂
大坂府備後町四丁目　岡嶋支店
千葉縣千葉本町一丁目　立眞舍
藝州廣嶋大手町一丁目　早速社
江州彦根西内大工町　新々堂
陸前國仙台大町四丁目　木村文助
越後長岡裏壹之町　大橋書房

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY